



平成30年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校

練馬区立貫井中学校の取組(報告)

前年度に続き、平成30年度も練馬区立貫井中学校は東京都より「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」としての指定を受け、様々な取組を行いました。

今年度は、「ボランティアマインドの醸成」を重点に、「障害者理解」および「国際理解教育」にも力を入れて一年間取り組んできました。

ここでは、平成30年度の主な取組事例を紹介します。

1 さら助産院 助産師 直井 亜紀さんを講師に迎えて、 道徳授業地区公開講座実施(7/14)

- ・講演会の前に各クラスで、戦争の資料や相田みつおさんの詩、植物の成長などを題材に、生命の尊さについて道徳の授業を行いました。かけがえのない命について学習した後の講演会は心に残るすばらしい1時間となりました。
- ・生徒一人一人にプレゼントされたハート型の小さな折り紙で母親のおなかに宿った小さな命の大きさを教えていただきました。



- ・羊水や赤ちゃんの指しゃぶりの意味についてのお話など、興味深く聞くことができました。赤ちゃんの誕生シーンを人形で説明し、人形の赤ちゃんが生まれた瞬間は思わず生徒より拍手がわきおこりました。
- ・DVD視聴では助産院での子どもの誕生シーンを見ました。出演された方の涙ながらのお話から、何者にも代えがたい命の尊さを改めて感じました。

・「いじめられたくて生まれてきた命はない。」どの

命も、皆が幸せを願って誕生した命。
その命を粗末にせず、皆で大切に育てていきたいと思いました。

2 スーパーボランティア尾畠 春夫さんを講師にお迎えして、 「オリンピック・パラリンピック教育」講演会実施(1/18)

- ・大分県日出町よりスーパーボランティアの尾畠 春夫さんをお招きして、「私にとってのボランティア」という主題で6校時に講演会が行われました。当日は、テレビ局の取材も入り、いつもとは違う雰囲気でしたが、保護者や地域の方なども数多く参観していただき、有意義な1時間になりました。
- ・本番を前にして、2学期終業式の日には生徒たちには尾畠春夫さんの講演会について映像



を通して伝え、ご本人にどんなことを聞きたいのかを質問紙に書いてもらい、事前にまとめておきました。

- ・1月18日(金)当日の午後1時過ぎに尾畠春夫さんが本校に到着し、給食を食べていただいてから、いよいよ講演会が始まりました。講演会は、生徒からの質問ひとつひとつ尾畠さんに答えていただく形で進行了ました。どの質問に対しても丁寧に、分かりやすく、力強い答えをいただき、生徒たちも保護者や地域の方

も大満足でした。

- ・質問の中で、ボランティアをするときに大切にしていることは、笑顔で「おかげはありませんか。今日一日よろしくお願ひします。」とだけ伝えることだそうです。相手の心を思い、自分について多くのことは語らないようにしているようです。被災者の方から話しかけられたときは、親身になって話を聞いてあげるとのことでした。また、ボランティアをされていて嫌になったことは一度もないと言い切ったことに誰もが驚き、感動しました。
- ・最後に、中学生に伝えたいことを話していただきました。「将来のしあわせのために、今は、中学生として一生懸命勉強して、いろいろなことを身に付けてください。」とのことでした。東京から自宅まで歩いて帰るといふ尾畠さんの言葉に会場は沸きました。
- ・講演会の後、PTAや同窓会の方々との懇親会や教職員との座談会も行い、生徒だけでなく大人も楽しい時間を過ごすことができました。



3 「あすチャレ!ジュニアアカデミー」 パワーリフティング競技 マクドナルド山本恵理選手による授業実施 (2/27)

- ・昨年度の日本財団パラリンピックサポートセンターによる「あすチャレ!スクール」に続き、今年度は「あすチャレ!ジュニアアカデミー」を実施しました。講師は2020東京パラリンピック出場を目指すマクドナルド山本理恵さん。



- ・授業ではパラリンピックとは何か、どのくらいの数の競技があるのかなど教えてもらいました。また、グループワークを行い、車いすクイズに答えたり、目が不自由な方への対応などを考えたりしながら、楽しく授業が進行しました。
- ・幼い頃に苦手だった水を克服するために水泳を始めたことがパラリンピック出場という夢をもつきっかけになったことを話していただきました。

- ・マクドナルド山本さんは、車いす生活に不自由を感じたり、足が使えるようになりたいと思ったりしたことは一度もないそうです。東京パラリンピックにはぜひ出場していただきたいと思いました。

4 3年ユニバーサルマナー教室実施(2/18)

- ・第3学年で実施している3年目の取組が、「ユニバーサルマナー教室」です。自分とは違う誰かのことを思いやり、適切な理解のもとで勇気をもって行動に移すことが大切だと学びました。そして、障がいのある人やお年寄り、LGBTといわれている人、様々な方々と共に生きていくために本当に必要なことを学ぶことができました。
- ・授業では、実際に人との違いや共通点をグループで話し合い発表したり、目が見えない方の目になって画面に現れた絵を言葉で説明する体験や耳が聞こえない方のためにジェスチャーだけで文章を伝える体験を行ったりしました。
- ・「お手伝いできることはありませんか？」と声をかけて相手が求めていることを理解して、行動することが相手を気遣うことだと分かりました。
- ・難しかったけれど、楽しく取り組み、最後には全員にユニバーサルマナー検定の認定証が渡されました。



5 2年「技師についての講話」実施(3/1)

- ・平成29年度より貫井中学校の近くにある「吉田技師装具研究所」の橋本匡史様による講話が行われています。今年度も、中学2年生に向けて、貴重な1時間の授業をしていただきました。
- ・義手や義足にはどのような種類があるのか、どのように作られるのかなど映像を見たり、実物を見せていただき、代表者がサポーターやコルセットなどを着けたりして体感をしました。
- ・質疑応答の後、見本にもってきてくださった義足や義手を触ることができました。教員の方が興味をもって何度も作り直しをして作られた義足や義手を、じっくり見たり触ったりする姿が印象的でした。



6 2年「認知症サポーター養成講座」実施

(3/6)

- ・第2学年で、練馬高齢者相談センターの方をお招きして、認知症とはどういうものなのか、また、認知



症の方に対してどのように対応したら良いのかななどを学習しました。冊子を使っ
ての説明を聞いたり、クイズに答えたりしながら、具体的で分かりやすい授業で
した。

- ・感想などを書いて、最後に、講座を受けた全員がオレンジリングをもらいま
した。誰もがいずれ認知症になる可能性があります。今すぐ実践につなげられ
るかどうか分からないけれど、生徒にとっては大変良い勉強の機会になりま
した。

7 1年国際交流授業実施(3/1)



- ・ブラジル大使館およびブラジルの留学生を交えて、第1学年で国際交流の授業を実施しました。ブラジルの紹介映像を見ながらクイズに答えたり、ブラジルの早口言葉で遊んだりして、ブラジルの文化や歴史などを学ぶことができました。
- ・2時間授業の後半は、グループになって、フリーティングの交流をしました。留学生の方への質問も、最初は月並みな質問でしたが、慣れるにつれて好きな食べ物や動物、さらには彼女がいるかなど、突っ込んだ内容になっていきました。

- ・留学生の方々の流暢な日本語に生徒たちは大変驚きました。1年生にとってまたとない機会でしたが、大使館の方たちからも良い交流ができたと言ってもらいました。充実した時間を過ごすことができました。

8 陸上競技部「練馬こぶしハーフマラソン」にボランティアとして参加実施(3/24)

- ・練馬区で開催している「練馬こぶしハーフマラソン」が、3月24日(日)に開催され、本校の陸上競技部の生徒が、今年もランナーに水を配るボランティアとして参加しました。
- ・給水所を通過するランナーたちの中には選手として、参加する貫井中の先生方にもお会いし、大きな声援を送りながら、楽しく、ボランティア活動を行うことができました。



- ・また、来年度もより多くの生徒がボランティアとして活躍できる活動の場にしていきたいと思います。

9 その他にも・・・

- ・夏休みにロシア中学生と柔道での交流を行い、練習の後に、茶華道部の生徒たちによるお点前の体験をしてもらいました。ロシアの学生や先生にとっても喜んでもらい、ボランティアの楽しさを知る機会となりました。
- ・昨年度に続き、全教員がオリンピック・パラリンピックに関する授業を各教科で1時間以上実施しました。

